

生活科学科

高橋 れな

歩く目標

・ばあちゃんの名生

・家族の健康

・最後まで無事にいける

こと

課題Ⅱ「自

分はこの遍路

でどのように変わるか」

遍路をしていてる時は分

からなかったが、終わっ

てみて変わった部分があ

ることに気付いた。まず

忍耐力、あと根性がつい

た。知らない人とも話せ

たり、挨拶できるように

なった。人の温かさも実

感できる。今まで自分

欠けていたところが充た

された感じがある。短い

期間だと思っけど、自分

を変えられたいい時間

だったと思っし内容の濃

い日々でもあった。

遍路日記Ⅱ九月十七

日、晴れ。前の晩、あま

り眠れなかった。不安も

いっぱい。岩屋寺には先

達さんやテレビ局、新聞

社の人がいっぱいびっく

りし、緊張した。登り坂

はいつまでもつづき、は

じめから息が切れる。先

達さんは、疲れたら「正

解正解大正解」「南無大

師遍照金剛」と唱えたら

楽になると教えてくれた。

さつまいもや栗のお接

お接待受け「がんばろう」

待を受ける。嬉しかった。さあ、がんばろうという気持ちにさせてくれた。

九月十八日、晴れ。今日

は少し楽かなとおもっ

たけど、コンクリートの

道は熱く、つらい。山の

ほうが涼しかったし、歩

きやすい。繁多寺でお弁

当、なんでこんなに美味

しいのか。石手寺で衛門

三郎再来の証の小石を見

て驚いた。

九月十九日、晴れ。第

二試練の松山・今治は苦

しかった。足の裏にマメ

ができて痛い。栄福寺あ

たりで限界にきていた

が、仙遊寺はまだ山の上

で、休みたい、帰りたい

と、ずーっと思っていた

ら悲しくなってきた。

九月二十日、晴れ。途

中、車工場で「テレビや

新聞見たよ。ここ通ると

思うて待ちよったんよ

がんばりや」と声をかけ

てもらい、疲れがふっ飛

んだ。ヤル気がでてき

た。

矢野さんのママがひど

くて悩んでいたけど、明

日は最後だからがんばる

らしい。えら

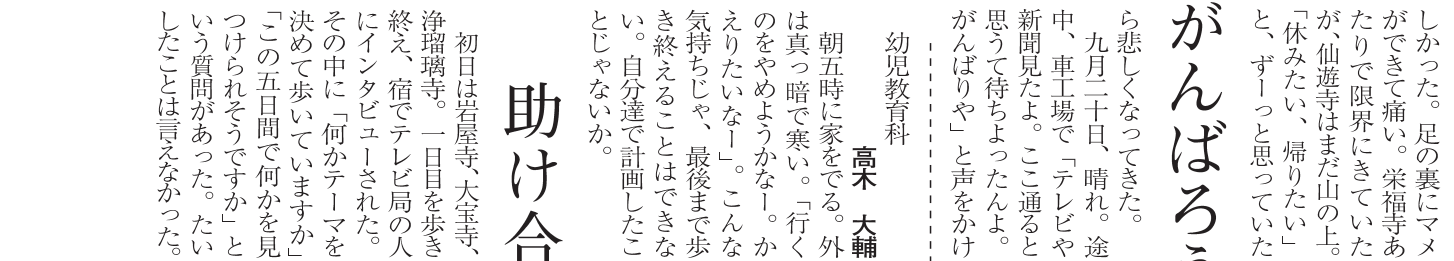
いなあー。

九月二十一

日、雨。朝から雨が降り

そうな天気。坂道がすご

い。途中、渡辺が「苦し



初体験レポート ㊦

助け合う大切さ再認識

幼児教育科

高木 大輔

朝五時に家をでる。外

は真つ暗で寒い。「行く

のをやめようかなー。か

えりたくないー。こんな

気持ちじゃ、最後まで歩

き終えることはできな

い。自分達で計画したこ

とじゃないか。

質問が頭から離れな

かった。「何を見つけれ

るか」は終わってみな

いと分らないが、テー

マを考えてみた。すぐに

思いついた。今の自分を

五日間で変えるのは難し

いが、少しずつ考え方を

変えていく目標を作っ

てみた。社会に出ても通

用

初日は岩屋寺、大宝寺、

浄瑠璃寺。一日目を歩き

終え、宿でテレビ局の人

にインタビューされた。

その中に「何かテーマを決めて歩いていきますか」「この五日間で何かを見つけてくれそうですか」という質問があった。たい

する考え方を少しずつ身に付けようと思った。何度もリタイヤしようかと思っただ、「がんばってください」とか「テレビに映つとったよ」との声に、なぜか元気がでたし「よし、がんばろう」という気になつてしま

う。こちらから「おはようございます」「こんにちわ」と声をかけると、笑顔で返事を返してくれ

た。五日間、僕たちと一緒に歩いてくださった先生方には感謝している。おせわしてくださった多くの人達がいなかったら、最後まで歩くことはでき

生活科学科

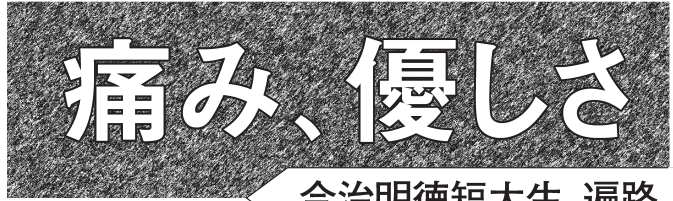
渡辺 祐美

テレビで見たり、実際に遍路さんの姿を見かけると、何か引きつけられるような魅力があります。最初、歩く距離のことも考えたと不安はありましたが、自分の何かが変わると思って参加しました。

はじめての体験で、いろいろな感動がありました。森や海の景色、きれいな水の音、歴史の深さ、そしてお接待してくれた人達の笑顔。

疲れてしまっている自分がいて、町の人達やお遍路さんといさつを交わしたりふれ合ううちに、「がんばるぞ」と勇気が湧いていました。やっと目的地にたどり着いた時は、急に力が抜けて涙が溢れ出しました。うれしさと一緒に他の何

かたまっていたものも出ていったような感じがして、自分の中でも印象に残っています。歩いているとき、遍路は痛み、優しさ、感動、楽しさ、強さ、悔しさなどいろいろな顔を持っていると思いました。



今治明德短大生 遍路



へんろ体験学習 最終日 (香園寺境内にて)

多くの人から力もらった

自分は弱気な部分があつて、目標を立てても長続きしませんでした。が、今ではいろんな人から力もらった気がして、何でも最後までやりとげました。自分のおかげでもあると思ひました。最後の日に倒れてしまひ、悔しくて涙がでました。しかし、みんなと一緒に歩けたからここまで歩けたと思ひます。遍路というの自分を見つめ直し、欠けているものを見つけた一つの方法だと思ひました。まだ見つけられないものやもっと知りたい事があるので、遍路に興味を持つて探したいと思ひました。

幼児教育学科 長谷部 浩

一日目朝五時半、学校を出発。自分がどこまでできるのかを知るチャンスと思ひ参加したが、岩屋寺への登り坂で早くも帰りたくなつた。そして大宝寺に向かう時は倒れそうなくらい。狩場苑でのお接待は、疲れてしたことあつて感動した。自分が相手の側に立つたとき、あれほどやさしくできる自信がなつた。長珍屋についていた時は、張りつめていたものが切れて体中の力が抜けてし

体は限界、気力で頑張る

二日目昨日の疲れも残っていたので、足どりは重い。アスファルトの道は照り返しがきつ、足も痛かつた。体力は限界だつたが、気力ががんばれたと思ふ。精神的に強くなれるような気がする。歩き終えた時に、自分の考えや気持ちがあつたか楽しみである。

三日目朝六時出発。今日は体調が悪い。途中で熱中症のような症状がで、とうとう車に乗ってしまった。歩いている人がまぶしく見えた。

へんろ道文化に学ぶ四つのキーワード
1、癒し
2、出会いや多様な地域文化とのふれあい、豊かな自然環境は心を癒す魅力がある。

2、ボランティア「お接待」や「善根宿」などのことばで受け継がれていゝるもてなしの心は、今日のNPO活動やボラン

ティアの根つこの心だ。
3、文化交流
四国の人達との出会いは、様々な生活文化や農業技術の交流を生み、多彩な地場産業を残している。

4、環境保全
遍路の祈りの空間は寺院だけでなく、へんろ道こそが修行の場である。霊峰から大河、太平洋から瀬戸内海、四国の自然風土はまさに曼陀羅の地でもある。お遍路さんは何を思ひ、何を考えてあるか、いゝのか知れた。自分が、自分は歩く事に一杯でも考えられなかつた。しかし、一日目の目的地に着いた時の感動や達成感、今までにないものだつた。何かをやりとげる気持ちよさを実感した。これからも苦しい場面に出会ふと思ふが、歩きへんろ実習を思ひだし、乗り越えていきたい。